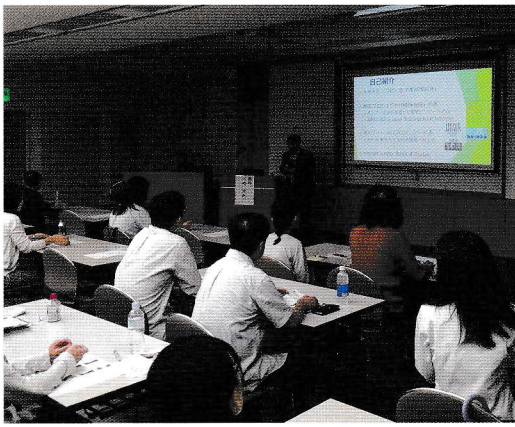


デジタル時代の組織ガバナンスとキャリアパス

東京大学大学院情報工学系教授 江崎 浩氏

支部総会後に開催される恒例の記念講演が、東京大学大学院教授江崎浩氏をお招きして開催された。

江崎氏には、『インターネット・バイ・デザイン』（東京大学出版会）という、産業カウンセラーは、およそ手を伸ばさないであろう著作がある。あえてまとめると、インターネットという情報革命の成果を、うまくいこと実生活に組み込もうとする試みが、どんどん着々と進んでいるのが今という時代だとのこと。それとキャリアの話がどうつ



ながるのか？ 東京大学の教授の講演ともなれば、小難しい御講和を謹聴：と思いきや、現場を知る仕事人の、骨太なお話を聴くことができた。そもそも江崎氏は、中村支部長のラグビー部時代の後輩とのこと。講演依頼とともに素人にもわかるようにというとても難しい注文が先輩からあったとか。先輩の心配をよそに、講演は終始熱気にあふれ、かつ専門的な内容が分かりやすい言葉で語られて、大いに刺激を受けることができた。

デジタル化で輝くシニアの「経験」

「デジタル時代」とは、情報が物理的なメディアから自由になっていくことであり、そうして身軽になった分、デジタル時代では、インターネットの空間と同様、実空間（社会や産業）においても、創造的に、コストダウンが図られる。一方でアップデートやセキュリティ対策が必要になっていく。つまり社会や産業において、新しいサービスを生み出すことや、品

質を向上させうる可能性を獲得すると同時に、組織ガバナンスにもアップデートが必要になる。江崎氏によれば、組織ガバナンスのできる役職こそ「監査」であり、それにふさわしいのがシニアなのだとのこと。シニアのもつ、酸いも甘いも知り尽くした知恵と経験が、役立つのだとのこと。

定年後も現役と同じだけの時間

とはいえシニアに何を求めているのか。人生百年時代となり、リタイア後も40年近い時間があるとなると、それはリタイアまでに勤務した年数とほぼ同じだけの年数を過ごすということになる。そこには、リタイア後は第二の人生を謳歌といったイメージはもはやない。シニアにキャリアパスが必要となる理由はここにある。

社会や産業のような実空間が、デジタル時代となって、インターネットの設計思想を組み込んでオープンな関係が再構築されていく。そのなかで、セキュリティ

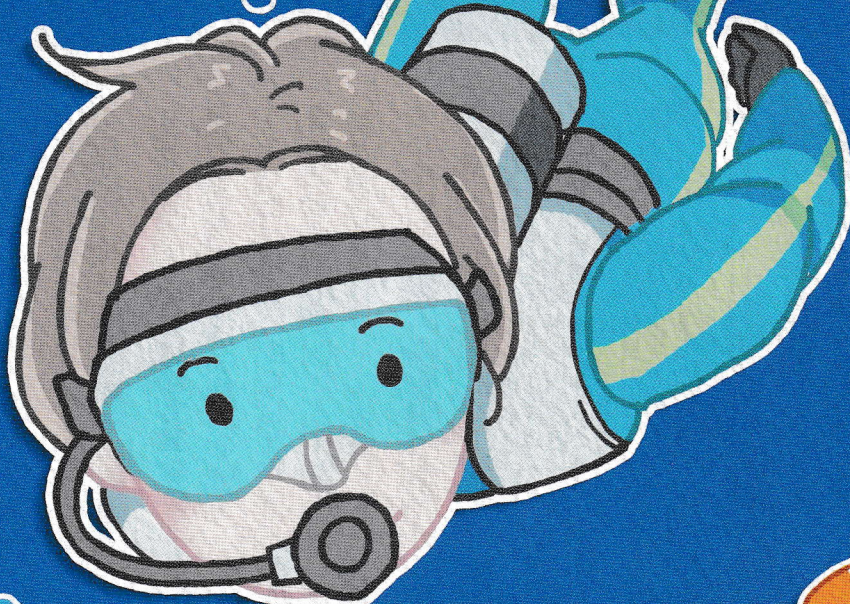
機能として組織ガバナンスを受け持つ監査とは、従来のような、単に規制で縛りあげ従業員を委縮させることではなく、むしろ組織や従業員が自由に活躍できるように規制し過ぎず、適度なバランスを保てるようにリスク対応すること。このバランス感覚こそ、シニアにしか持ちえない経験に基づくものなのだ。

「処方箋」か？「劇薬」か？

さきほど「刺激を受けた」と表現したが、講演はむしろ「劇薬」に近い内容だったのでないか。支部の会員は、シニア世代が多い。前提として、シニアの職歴（体験）が、「デジタル化」されて「経験」となっていることが必要となるだろう。この世代へこれまでのキャリアの見直しを求め、大いに発奮を促す内容であったといえる。シニア世代の皆様、「最近は何となく息切れがひどくて」だの、「季節替わりは関節痛が」だのと言ってはいられないのである。

東風

[TOFU]



特集—第13回支部総会・第48回本部総会—2

支部長ご挨拶—2

記念講演—6

運営幹部および監事紹介—7

産業カウンセラーを訪ねて
—養成講座の副産物—8

OUR ACTIVITIES—10

教えて！—賛助会員—12

こころの寄り道—13

こんな本み〜つけた—『君たちはどう生きるか』—13

産業カウンセラーが知っておきたい法律の話

—産業カウンセラーに関わる法律トラブルについて—14

幹部会・運営協議会報告—15

CALENDAR—16

